

9年分の思いをこめて

兵庫県 高橋 愛

3年ぶりの神戸。チャレンジ枠の記録証は「走れますように」手を2つ叩いて投函。夫は笑った。その後甲状腺癌が判明。私は医師、妻、母であり市民ランナー。同職の夫は甲状腺癌は予後が良いと、高1の息子はネットで調べ大丈夫と冷静。私は冷静な2人の中で取り乱すチャンスを失った。穴を掘って泣きたかった。しかしお陰で私は前を向き、家族の中で機能している自分を確認できた。主治医に尋ねた。「術前に神戸走りたいです。冬にも。」「いいよ。術後は十分に練習しにくいから記録狙うなら神戸」快諾。当選通知まだなのに。そして当選。転移の有無の結果を聞く朝、冷静なはずの夫は通勤途上、病院の前で手を2つ叩いたそうだ。転移はないと話すと「僕が拝んだからや」。2人で大笑い。9年前神戸マラソンのエピソードに「諦めなければ必ずゴールがくることを息子に伝えたい」と書いた。私の背中には息子にちゃんと伝えてきただろうか。大人目の彼に伝える事はもうないのかもと思った。でも1つ強がりと言うなら病気を宣告された患者が乗り越える姿を見てほしい。生きる力全開で走ろう。息子のくれたお守りと9年分の思いを持って。目標は私の最速3時間26分6秒



ランナーエピソード 3年ぶりの神戸マラソンの思い出



KOBE MARATHON
2022.11.20 SUN